

昭島礼拝 2020/7/5

聖書：ヨシュア 1:1-9

主題：新しい地に

賛美：

みなさん。おはようございます。7月に入りました。今日から礼拝では旧約聖書を見ていきたいと思ひます。今日から9月中旬まで、11回の予定でヨシュア記を見ていきたいと思ひます。ヨシュア記は後ほど説明しますが、エジプトを脱出したイスラエル人たちが約束の地、カナンへ入っていく時のお話が記されています。今までイスラエル人たちは、いつか神様が用意して下さっている約束の地、乳と蜜のながれる地へ連れて行ってくださると聞いていましたが、その場所へ行ったことがありませんでした。新しい場所へ行くのです。不安と期待が入り混じり、またヨシュア記の半分は戦争の記事になっていますので、独特の緊張感がこのヨシュア記を覆っています。その中であって神様の約束の地へ入っていくイスラエル人たちの姿から、私たちも神様に従う姿勢を教わりたいと思ひます。

今日は、ヨシュア記1章を開いて頂きました。一見したところ、ヨシュア記は聖書の中でも、一つの書物として非常に良くまとまった構成になっているように思ひます。私は大学でプレゼンテーションの仕方の基礎も学んだんですが、何かを人に説明する時は、序論、本論、結論と構成するのが良いと言われます。論文を書く時もそうですね。このヨシュア記はほぼ明確に、序論、本論、結論と分ける事ができるように思ひます。今日読んで頂いた1章はまさしく序論です。そして結論は終わりの23-24章になると思ひます。9月に改めて開きますが、内容はヨシュアが自分のこれまでの歩みを振り返って、イスラエル人たち

に遺言の様な説教を語っています。この序論と結論がこのヨシュア記のテーマを語っています。それは「主が共にいて下さるから、あなたは主に従い通しなさい」というメッセージであろうと思ひます。ヨシュア記には闘いの記録が書かれています。それは他の国との戦いでもあり、自分たちの内面との戦いでもあります。イスラエル人たちはかつてエジプトで奴隷でしたが、出エジプト記で神様によって救い出されました。そして40年もの間荒野を旅して過ごします。水も食べ物も何もない生きていくには大変な所でしたが、神様が常に水と食べ物を与えて下さいました。まさにサバイバルのような場所なのですが、それゆえ外敵が襲ってくるという事があまりない場所でした。誰も好き好んで水も食べ物もない場所に自分の国を作ろうとは思いません。また金、銀、財宝などとも無縁な世界でした。人々はみな神様から与えられている、その日必要な物だけを分け合って生活していました。ですからそのような外国との戦いがあまりない、外国の異教文化も入りにくく、富や権力への誘惑も少ない環境でした。ある意味で神様と自分たちという関係に集中すればよかったのです。しかしヨシュア記は状況が変わります。外国との戦いがあります。そして外国の神々の誘惑、富や財宝への誘惑があります。そのような中、イスラエル人たちはどこを目指していくのか、それがヨシュア記に記されています。

聖書の大きな区分では、ヨシュア記の前まで、創世記～申命記までをモーセ五書と言ひます。このモーセ五書は聖書の始まりの始まりであり、すべての基本概念となることが記されています。ですからイスラエル人たちはこのモーセ五書を律法(トーラー)とも呼びます。モーセ五書は文字通り、主にモーセに関係することが書かれています。神様はモーセを遣わして、エジプトからイスラエル人たちを救い出しました。モーセはイスラエルのカリスマ的存在です。そのモーセが召され、死んだ後、ヨシュアがイスラエルの民を導いていきます。そして約束の地に入っていくのです。偉大な指導者を失ったイスラエルですが、

神様はそのようなイスラエルの民と、特に新しいリーダーであるヨシュアに励ましの言葉を送ります。「わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたが行くところどこでも、あなたの神、主があなたとともにおられるのだから(1:9)」

新しい地へ旅立つ時には不安が付きまといます。この時、イスラエル人たちはこれから入っていく新しい地には、とても力強い敵がいることを知っていました。かつて約 40 年前に一度、偵察に行っているのです。そこで偵察隊が見たのは巨人のように強そうなカナン人たち、そしてとても強固な守りを固めた町でした。とても勝てそうにないと思ったのです。神様は「私が共にいるから大丈夫だ」と仰ったのですが、イスラエルの民は進むことができませんでした。そして神様はイスラエル人たちに対して怒り、荒野に戻るように命じられたのです。そして 40 年間イスラエルは荒野をあちこち動き回って過ごしました。荒野での 40 年の間に世代交代しましたが、イスラエル人たちはそれほど強い武器を持っているわけではありません。戦いのために訓練を受けたわけでもありません。しかし神様はヨシュアに言いました。「あなたの一生の間、だれ一人としてあなたの前に立ちはだかる者はいない。わたしはモーセとともにいたように、あなたとともにいる。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。6 強くあれ。雄々しくあれ。あなたはわたしが父祖たちに与えると誓った地を、この民に受け継がせなければならないからだ。(1:5-6)」神様は、この戦いが神様の戦いであることをヨシュアに教えました。イスラエル人たちの先祖であるアブラハムからずっと、神様はこのカナンの地がイスラエル人たちのために用意して下さっている約束の地であることを語りました。そしてそこへイスラエル人たちを導くために神様はモーセを立てられ、今度はヨシュアを任命したのです。神様はモーセが生まれた時からずっと導いてこられ、モーセと共にいて、モーセを用いて、エジプトの国からイスラエル人たちを救い出されました。同じようにヨシュアとも共にいることを教えられました。神様が計画し、神様

が事を実行に移されるので、それを邪魔できるものは誰もいません。神様は力強い神様です。神様は決してヨシュアとイスラエル人たちを見捨てません。神様は必ずヨシュアとイスラエル人たちの旅を成功させてくださいます。今日は読みませんでしたけれども、1:10 以降でヨシュアはイスラエル人たちに神様の言葉を告げ、出発の準備をするように命じます。するとイスラエル人たちは 1:16-18 でヨシュアにこのような事を言います。「私たちはあなたの言うとおりに何でも行います。神様があなたと共にいてくださいますように。」これはイスラエル人たちも神様を信じて前に進むという決意を示したという事です。これはヨシュアにとっても大きな励ましとなったことでしょう。新しくリーダーになり、新しい地へみんなを導くにあたり、神様を中心としてみんな一丸となってくれたのです。ヨシュアは神様からの確かな約束を頂き、そして周りのみんなからも励まされて新しい地へ踏み出すことができました。

さらに神様は 1:7-8 でこう述べています。「ただ強くあれ。雄々しくあれ。わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法のすべてを守り行うためである。これを離れて、右にも左にもそれではならない。あなたが行くところどこでも、あなたが栄えるためである。8 このみおしえの書をあなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさめ。そのうちに記されていることすべてを守り行うためである。そのとき、あなたは自分がすることで繁栄し、そのとき、あなたは栄えるからである。」神様は神様がモーセを通してイスラエル人たちに与えた律法を守り行うように命じました。右にも左にもそれではいけないと神様は仰いました。まだこの時にはイスラエル人たちもあまり深くこの言葉の意味を考えていなかったかもしれません。イスラエル人たちは言われるまでもなく、神様から与えられた律法を守り通すつもりでした。他の神々など信じないと思っていました。しかしある意味、このような決意はまだよく知らないからできた決意とも言えます。これからカナンの地に入っていくと、他の異教文化はまるで味方

のようにして、イスラエル人たちの中に入り込んできます。だれでも「これは悪いものだよ」と言われれば、それを拒否する事ができます。しかし他の神々は「悪いよ～。悪いよ～」という感じでは入ってこないのです。とても良い事としてイスラエル人たちに所にやってきます。ですからイスラエル人たちは右や左にそれてしまいます。神様は言います。「このみおしえの書をあなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさめ。そのうちに記されていることすべてを守り行うためである。」「昼も夜もそれを口ずさめ」とはすごいですね。ぶつぶつといつも聖書の言葉を唱えていよということですよ。それくらいいつも意識的に神様のことを考えていないと私たちは見誤ってしまいます。せっかく神様が道を備えて下さっていても、その道から私たちが逸れてしまいます。そうならないように、いつも聖書を読み、神様に思いを向けることが大切です。

もし神様が私たちを新しい地、新しいステージへ導いて下さるのであれば、主導権は神様にあるのですから、私たちはしっかりと神様の導きを求め続けたいと思います。神様の計画ですから神様が成し遂げて下さいます。詩篇 37:3-5 にもこのように書かれています。「主に信頼し 善を行え。地に住み 誠実を養え。4 主を自らの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。5 あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。」神様は私たちよりもとても強いお方です。そしてずっと遠くまで見渡しておられるお方です。また私たちに良い事をなして下さるお方です。その神様の計画と実行力を信じ、導きを仰ぎつつ歩みたいと思います。

ヨシュア記の概要

いつ

どのような

場所

約束の地

神様から与えられている地

神様が導いて下さる

主を恐れ、主を信じ

強くあれ

神様が成し遂げて下さる

神様を恐れ、戒めを守れ